



## Merry Christmas, Higashikawa! Donna Rasalan Lampa

You read my title right. I'm warmly wishing everyone in town a merry Christmas because back in the Philippines, September 1 marks the start of the holiday season! From here on, we start greeting each other "Merry Christmas." If you listen to the radio, you'll also be singing along to Christmas classics until mid-January. That's more than four months of Christmas carols!

Christmastime in the Philippines is the longest in the world. Majority of Filipinos are Christians, so we take the time to prepare for Jesus's birthday. We go to church to reflect on our faith and values, and we pray for peace on earth and in our families.

We put up Christmas trees in our homes and schools. Even airports, malls, and main roads get decorated with Christmas lights and ornaments. The most iconic Filipino Christmas décor is the parol, a star-shaped lantern made of bamboo or shells.

We hold big potluck parties and exchange presents with friends, relatives, and colleagues—but because Christmas is about baby Jesus, it's customary to give the best and biggest gifts to children! When I was young, I got a lot of money, school supplies, and toys from Santa Claus and other adults every year.

I'm on the giving end of this tradition now that I'm all grown up, but that doesn't keep me from coming home every Christmas because as it turns out, giving makes the heart light and happy, too.

### 【ちょっと豆知識】宮地晶子

フィリピンのオーナメントが星形なのは、キリストが生まれたとき、まぶしい星の光が、生誕の地を照らしたからでしょう。Star of Bethlehem (ベツレヘムの星)。クリスマスツリーのとっぺんに付いてますね。ちなみに、スター・オブ・ベツレヘムという植物もあり、毎年、星形の白くてきれいな花が咲きます。

## メリー・クリスマス、東川! ドナ・ラサラン・ランパ

タイトル、皆さんの読み間違えではありません。心から町の皆様には素敵なクリスマスと願っています。というのもフィリピンでは、9月1日がホリデーシーズンの始まり!ここからは挨拶といえば「メリークリスマス!」。ラジオなら、1月半ばまでは昔ながらのクリスマスソングに合わせて歌います。クリスマスキャロルが4ヶ月以上流れるというわけです。

クリスマスは世界でもフィリピンが最長。キリスト教がほとんどなので、キリスト生誕のお祝いの準備は入念です。教会に行き自分たちの信仰と意義に思いを巡らせ、家族と地球の平和を祈ります。

家庭でも学校でもクリスマスツリーを飾ります。空港やショッピ

ングモール、主要道路もオーナメントやライトで飾られます。最も象徴的な装飾は竹と貝殻でできた星形のランタン「パロル」です。

みんなで盛大に持ち寄りパーティを開き、友人、親戚、同僚とプレゼント交換をします。でも、なんといっても乳飲み子イエスのお祝い日なので、一番大きくていい贈り物は子どもに贈られるのが常です。私も若いときは、サンタや大人からたくさんお小遣いや文具、おもちゃをもらいました。

もうすっかり大人になってしまったので、今はあげる側ですが、それでクリスマスに帰国しない、ということにはなりません。贈り物をするだけで心軽やかにハッピーになれるからです。

(訳:宮地晶子)

英語教育指導員 宮地晶子の

エイゴノマナビカタ

第163回

## 「訳しません。」

今年もフォトフェスタが無事、終了しました。毎年、この時期は北海道とは思えないくらい暑い東川。世界中から写真に熱い情熱を持った人が集まるからかな。今年の東川賞・国際作家賞を受賞したのは、オーストラリアのローズマリー・ラングさん。展示するのは大きめの作品4点。それとショーケースに、作品の制作過程を示すスケッチとスナップ写真が少々。一瞬、「今回の展示指示はあっさり終わる」と思ったのが大間違い。高さ、幅、展示スペースに入った瞬間に目に

入る角度、などなど、そのこだわりが半端なかった。何度も何度もモデルのように歩いて展示室を出入りしてみる彼女。その度キュレーターの見解を聞く。やっぱ細部にこだわってこそ作家なんだなあ。そんなわけだから、写真のコンセプトがわかりやすい筈もなく。何度も何度も作品について話を聞きました。毎日毎日言葉の定義を突き詰めて、彼女の考えを頭に染み込ませる。そして迎えた授賞式。ちょっとアカデミー賞の授賞式を思い浮かべてください。次々と人名をあげて感謝の言葉を述べるシーン。そう、あのシーンがやってきました。感謝の言葉は町や審査員、スタッフ、ボランティア、キュレーターに。そして光栄にも私にも。順調に通訳していた私ですが、そこはそれ自分への感謝の言葉は「訳しません。」と一言。これがなぜか厳粛な授賞式に笑いを引き起こしてしまった。そして、式のあと行く先々で、信じられないくらい、たくさんの人からかわれることに。いやいや皆さん、先輩に習ったんです。通訳は自分への褒め言葉は訳さないって。